

## 地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	中能登町 174076
地域名 (地域内農業集落名)	瀬戸 (瀬戸)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	31.9 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	31.9 ha
② 田の面積	8.6 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.8 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

## (2) 地域農業の現状及び課題

当地区は、中山間地域に位置し、人口減少及び高齢化が進んでいる。農業の担い手については、充足していなかったものの、令和5年完了の土地改良事業の実施により、区画の大型化、農業用施設の近代化が図られたことにより、当分の間は最低限の農業者が確保される見込みである。

また、農業者の高齢化対策、すなわち次代の担い手確保が喫緊の課題であるが、集落内の若年層が非常に少なく、後継者が確保されている農家は非常に少ない。

【地域の基礎的データ】実際に集出荷を行う農業者:5人(うち50歳代以下0人)、団体経営体(農事組合法人)1経営体  
主な作物:水稲、麦

## (3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

水稲栽培を中心に置き、土地改良事業を実施した農地及び農業用施設を耕作・維持していく。  
担い手については、既存の農事組合法人を核として、集落内から新たな農業者を確保していく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンクへの貸付けを進め、担い手(農事組合法人)への農地の集積・集約化を基本とする。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	66 %	将来の目標とする集積率	80 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
現状を維持する			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
農地中間管理機構を活用して、集落の核となる担い手への農地集積を進める。また、離農者が生じた際などは特に集約化を検討する。
(2) 農地中間管理機構の活用方法
地域内農地の多くを農地中間管理機構に貸付済であり、これの維持とさらなる集積・集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組
令和5年に土地改良事業が完了している。 今後は、暗渠排水等の未整備区域での改良事業に着手する。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
集落内の営農法人の構成員の充実を図る。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
地域内で農作業の効率化を図るため、防除などの作業は、農業支援サービス事業者の活用を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="radio"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="radio"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="radio"/> ③スマート農業	<input type="radio"/> ④畑地化・輸出等	<input type="radio"/> ⑤果樹等
<input type="radio"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="radio"/> ⑦保全・管理等	<input type="radio"/> ⑧農業用施設	<input type="radio"/> ⑨耕畜連携等	<input type="radio"/> ⑩その他

<p>【選択した上記の取組方針】</p> <p>①鳥獣被害防止のため、イノシシ檻の設置や電気柵の設置を継続する。必要に応じて、山際の農地を緩衝帯化する。</p> <p>③省力化のため、ドローン防除などスマート農業導入を積極的に検討する。</p> <p>⑤水稻の生産性が低い農地を中心に、果樹栽培を導入する</p>
--



S=1:8000

